

【高等学校用】

令和4年度学校評価 中間評価

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀県立佐賀工業高等学校(定時制)
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・どの評価項目にも「概ね達成できている」が、改善の余地があるため、今年度は一層計画的に取り組んでいく必要がある。 ・校内で独自に実施しているいじめの早期発見のための「学校生活アンケート」は、内容を見直し、生徒の正確な実態の把握と安全安心な学校生活の確保に繋げたい。 ・低下傾向にある喫食率の向上に向け、職員全体による日々の指導の充実・食育講話・メニューの改善等を通じた組織的な取組を実践する必要がある。 ・一人ひとりの生徒に対し、職員全体できめ細やかな関わりができる定時制の特長を継続し、生徒の個性・長所を一層伸ばしたい。
2 学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域産業の発展のみならず、日本の産業界を牽引し、倫理観を持って未来に貢献する優秀な工業技術者を育成する。 ・主体的な学び、協働学習、探究活動を重視した教育を実践し、時代に即した柔軟な考え方を創造できる力を育む。 ・専門分野の基礎的な知識・技術を習得するとともに、先端的技術と融合させた学習を取り入れ、文武バランスの取れた環境を整えることで、自ら学び、考え、行動できる生徒を育成する。
3 本年度の重点目標	<p>○“ものづくり”から“者(ひと)づくり”そして“未来(あす)づくり”</p> <p>ア 新たな課題への着実な対応 イ 深い生徒理解に基づく指導 ウ 規律ある高校生活の定着 エ ものづくり教育の推進 オ 開かれた学校づくりの推進</p>

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
				●学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○わかる授業の実践と学習意欲の向上 ○学び直しの実践 	<ul style="list-style-type: none"> ○普通教科における基礎的な学力を育成し、学びの基礎診断において、準備時間を6時間以上行い、国語・数学の平均50点以上にする。 ○義務教育程度の学び直しの時間を5回以上確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学びの基礎診断を利用し、生徒の学力を把握するとともに個々の学力に応じた基礎的な内容や一般常識の学習を授業に取り入れ、就職試験にも対応できるようにする。 ・国語・数学に関して、どの段階で躓いているのかを生徒が自ら確認できるようにドリル形式の問題による学び直しの時間を確保する。複数の職員を配置して個別の指導が行えるようにする。 	B	・学びの基礎診断について、事前準備を5日間設定し各教科の協力を得て取り組んだ。教科別概要ではわずかではあるが上昇がみられた。学習の習慣化が図れば、一層向上するものと思われる。
●心の教育	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応体制の充実 ◎ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動 	<ul style="list-style-type: none"> ○「相手を思いやる」や「命の尊さを再認識した」と答える生徒100%を目指す。 ○学校生活アンケート等を7回以上実施し、「未然防止」「早期発見」「早期対応」に向けた体制の推進する。 ○いじめを「しない」「させない」「ゆるさない」心を育成する教育を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Eイズ予防講話、性に関する指導講話を全学年実施する。 ・アンケート調査ならびに担任による面談等を実施する。 ・全職員による登校指導等を行い、未然防止・早期発見につなげる。 ・全職員によるいじめの認知と認知に関わる情報の共有化を図る。 ・LHRや集会等で、心を育成する教育を実践する。 	B	・5月にEイズ予防講話、9月に性に関する指導講話を実施した。自分が存在していることへの感謝、命を大切に相手思いやるために、知識を身につけることを考える機会となった。				
	<ul style="list-style-type: none"> ◎ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ふるさと佐賀についての理解の深化と、佐賀を愛し誇りに感じる人材を育成し、佐賀を誇りに思う生徒100%を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校周辺の史跡探訪や佐賀の歴史や文化と人物についての講演会等を実施し、佐賀についての理解を深め佐賀に対する誇りと自信を持つ人材を育てる。 	B	・5月に歴史探訪として、学校周辺の史跡を巡り佐賀の歴史について理解を深めた。 ・12月に佐賀の歴史や文化と人物についての講演会を実施し、佐賀に対する誇りと自信を持つ人材の育成に努めていきたい。				
	<ul style="list-style-type: none"> ●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 ●望ましい生活習慣の形成 	<ul style="list-style-type: none"> ●「健康に食事は大切である」と考える生徒95%以上を目指す。 ○給食喫食率80%以上を目指す。 ○感染症、食中毒等を防ぐための自己管理能力を育成し、「手洗いは大切である」と答える生徒100%を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食育講話を実施。食に対する重要性を説き、喫食を促す。 ・給食アンケートを2回実施し、その後の指導に繋げる。 ・グリッターバッグを使った手洗い指導を実施する。(1年生対象) 	B	・5月に手洗い指導を行い、アンケートの結果「手洗いは大切である」と答えた生徒は100%だった。 ・第1回給食アンケートで「健康に食事は大切である」と考えた生徒は65%、9月までの給食喫食率は60%であった。今後、第2回給食アンケート、食育講話で食事の大切さを再度、話していきたい。				
●健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○教育相談の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○全教職員で情報を共有し、スクールカウンセラー等と連携し、組織的・機動的な体制をつくる。 ○大人にSOSを出せるように、相談環境を醸成し、生徒の居場所を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任、副担任と教育相談、スクールカウンセラー、養護教諭等との連携を密にし、全教職員が共通理解を図りながら相談・指導にあたる。 ・1月1回の職員会議において教職員が情報を提供し、組織的教育相談の体制を確立する。 	B	・昨年度に引き続き、スクールカウンセラーによる全員面談を実施している。スクールカウンセラーと少しでも話すことで、安心感を得たり、相談しやすい雰囲気作りができた。7月と10月に心の疲れやストレスの発散法などを教えてもらった。				
	<ul style="list-style-type: none"> ●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校閉庁日の設定、年次休暇の積極的取得を推奨し、教職員の心身の健康増進に繋げていく。 ・学校行事の精選に努めるとともに、校内の諸会議を勤務時間内に設定・実施する。 ・業務の適正化を図り、教職員の勤務意欲を一層高めることで、効果的な教育活動の実践に繋げていく。 	B	・学校閉庁日は、当初の予定どおり8月10日から8月15日の期間で実施することができた。 ・4月から9月までの全職員の時間外在校等時間の平均は、11.0時間であり、上限の45時間以内を達成している。 ・校内の行事や諸会議については、全て勤務時間内に設定・実施することができた。				
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○事務職員の学校運営への積極的参画と教員との連携促進 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育行政職員の専門性を活かし、経営的視点を持ちながら学校運営に積極的に参画する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員との連携を密にし、情報共有を行い、学校の現状を把握して一つのチームとして学校運営に取り組む。 	B	・教員から要望を聞きながら施設・備品の修理や購入を進め、教育環境を改善することができた。 ・物品の購入に優先順位をつけ、物価・電気代の高騰の影響を最小限にすることができた。				

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
				○進路実現	<ul style="list-style-type: none"> ○進路希望の実現 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒・保護者にとって満足度の高い進路実現を達成する。(進路決定100%を目指す) ○進路意識の高揚と職業観・勤労観の育成と定着。年度末生徒アンケートで「身について」生徒70%以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の能力・適性・希望に合った進路先の情報提供と適切な指導助言に努める。 ・在学中の就業率向上と職業講話などを通して職業観・勤労観の育成と定着を図る。 	B	・生徒の希望に沿った進路先の情報提供と指導助言に努め応募や受験の準備と対応を行い、就職希望では2名中1名が内定している。進路希望の3名は、これから受験となるので全員合格を目指したい。
★ものづくり教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ★ものづくりに対する興味関心の醸成 ○ユニファ・マイスター取得者及び各種競技会上位入賞者の実現 	<ul style="list-style-type: none"> ★学習に対し、主体的に取り組んだと思う生徒80%以上を目指す。 ○各種資格取得について、次の目標を達成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・計算技術検定合格率90%以上 ・パソコン利用技術検定合格率70%以上 ・危険物取扱者試験合格率40%以上 ・第2種電気工事士合格率100%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数でのきめ細やかな指導により、生徒の個性・能力・特技の伸長を図る。 ・始業前、放課後の補習を実施し、資格取得に対するチャレンジマインドの向上を図る。 ・学習が遅れ気味の生徒へは、個別指導を実施する。 	C	・計算技術検定は合格率50%で目標に達しなかった。電気工事士は1名受験し、筆記試験は合格したが、技能試験で不合格であった。12月に再度技能試験を受験するので補習を計画している。後半のパソコン利用検定試験、危険物取扱者試験は補習を実施し、それぞれの目標値を目指す。				
○開かれた学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ○魅力ある情報の発信 ○志願者、保護者の学校理解の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校HPの充実と月1回以上の更新を行う。 ○高校説明会等を通じて工業高校への理解や連携を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・志願者、保護者のニーズに対応したタイムリーな情報発信に努める。 ・危機管理意識に基づき情報公開により、安全・安心な教育活動を展開する。 	B	・学校ホームページは、中学生の進路選択の貴重な材料となるため定期的な更新に努めているが閲覧数が伸びていない。個人情報に配慮しつつ、躍動感のある情報発信に取り組み、閲覧数を増やせるよう、更なる工夫・改善を重ねたい。				

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・
----------------	--